

平成 18 年度 学校法人関東学院事業計画書

【 】学院の教育事業の方針

1. 基本方針

本学院は、建学の精神として寄附行為第 1 条に示されるように、「キリスト教に基づき、学校教育を行うこと」を使命（ミッション）とし、「人になれ 奉仕せよ」を校訓としています。

学院の教育事業の使命は、学院各校の総合教育力の実践により達成されます。それには先ず、本学院の教育使命に応えうる入学者を確保し、各校とも教育の質の向上に一層努力して園児・児童・生徒・学生の教育満足度を高めるとともに、社会に貢献・奉仕する人材の育成を図ることです。3 年後、2009 年の創立 125 周年という節目の年に向けて、各校の置かれた具体的条件を踏まえて社会の期待に応えられる教育事業を展開するとともに、建学の精神の内実化・統合化を推進します。

2. 教育事業計画の概要

次のような方針のもとに、各校の主要な教育事業を実施します。

1. 一貫教育に関する事業および奉仕教育を推進します。
2. 教育サービス受益者本位の教育を充実させます。
3. 地域社会に貢献する教育事業、国際化に対応した教育事業を推進します。
4. 進学・進路指導、安全教育、IT 教育を充実させます。
5. 教育事業の効果的な広報活動を推進し、入学者の確保に努めます。
6. その他、基本方針に関連する事業を推進します。

3. 財政計画の方針

本学院は、基本的には各校の予算制度のもとに運営していますが、全学院として健全な財政基盤を確立し、維持していくことが不可欠です。収入の多様化を図るとともに、「経費削減推進プロジェクト」を継続し、一層の経費削減と効果的資源配分に努めます。また、平成 18 年度予算編成方針に基づくとともに、人事院勧告による各種指標を目標として財政の健全化を図ります。

4. 管理運営計画

学院各校の特色ある教育・研究事業を効果的に達成できるように、管理運営面の合理化と業務の効率化を図ります。省エネルギー対策、個人情報保護、情報のセキュリティ対策および防災などリスク・マネジメントに基づき、園児・児童・生徒・学生にとって安全・安心な教育環境を維持するため、施設整備を計画的に進めます。

【 】大 学

1. 教育研究活動の基本方針

- ・教育に当たっては、学生の学力・能力・要望を的確に把握することに努め、学生本位の教育を展開し、教育目標を実現します。

- ・研究については、総合大学としてのメリットを活用した学際的・総合的研究を推進します。

2. 教育計画

- ・「学生による授業評価」を活用して教育の改善向上に取り組みます。また、教員のための「FD 支援委員会」の活動を活発にします。
- ・文部科学省等の各支援プログラムへの申請事業を積極的に行います。
- ・情報機器の充実に努め教育効果の向上を目指します。

3. 研究計画

- ・総合大学のメリットを活かした研究を推進します。
- ・採択された「学術フロンティア事業」・「ハイテクリサーチセンター事業」の研究プロジェクトを継続し成果を上げます。
- ・外部資金を獲得できる研究を推進します。

4. 学生募集計画

- ・大学・学部・研究科の求める学生像と本学の教育目標・教育プログラムに沿ったアドミッションポリシーを明確にした入試を実施します。
- ・大学の教育・研究・学生支援等の情報を「学生本位の大学」として高等学校・予備校へ伝え、信頼感の醸成に努めます。
- ・地区入試会場の拡大、広報の強化によって全国各地から受験者を集めます。

5. 学生支援計画

- ・「学生生活意識調査」を基に学生の実状を把握し、適切な方策を定め実施します。
- ・「学生本位の大学」を実現するための支援体制を充実させます。

6. 社会貢献計画

- ・教育と研究とを通じた長期的な視点からの貢献に加え、「産官学連携支援室」を中心とした社会との日常的・組織的な連携から得られる研究成果を社会に還元します。さらに、研究成果等を活用し、新技術、新事業の創出を図ります。
- ・「生涯学習センター」「KGU 関内メディアセンター」等の公開講座や講演会をさらに充実させます。

7. 施設整備計画

- ・環境にやさしいキャンパス整備を推進します。
- ・キャンパスのアメニティーを改善します。
- ・マルチメディア対応の教室を整備します。

8. その他の計画

- ・大学基準協会を認証評価機関とする第三者評価を受けます。
- ・室の木校地での ISO14001（環境マネジメントシステム）取得を目指します。

【 】 中学校高等学校

1. 教育の基本方針

- ・ 関東学院のブランド力を高めるためにも、教科の学習指導に励み、校訓「人になれ 奉仕せよ」が人生訓となる豊かな人間性と的確な判断力（倫理観）を持った生徒を育成し、将来に向けて幅の広い進路選択の途を開きます。

2. 教育計画

- ・ 2000 年に移行した週 5 日制カリキュラムを見直し、さらに充実した学習内容で教科指導することを検討します。
- ・ 本校独自の教材を開発中です。
- ・ 今年度より実施する高等学校でのハワイ島地学・天文研修につながるよう、中学校で展開中の理科教育（「アース・サイエンス」国立教育政策研究所との共同開発）を充実させます。
- ・ 現行の宿泊を伴う行事を検討し、中 2 は大阪と京都、中 3 は広島・長崎（選択）、高 2 は沖縄・韓国・中国・台湾（選択）へと研修先を変更し、実施します。また同時に、中 1・高 1 の修養会は次年度の研修旅行に向けての準備の始まりと位置づけます。
- ・ 関東学院小学校との教科学習上の連携（12 年教育）についての研究を継続します。

3. 生徒募集計画

- ・ 受験生の学習習慣を勘案し、2008 年 2 月入試より、入試科目を 2 科・4 科選択制から 4 科目のみに変更します。そのために受験者数の一時的減少が見込まれますが、結果的には学力の底上げになると判断します。

4. 施設整備計画

- ・ 学習環境を整備するために中学校新館建設に着手します。
- ・ 小学校との連携の中で三春台校地の整備のための 10 年計画を立てます。

5. その他の計画

- ・ 三春台校地で展開される教育活動を積極的かつ具体的に支援する後援会設立を準備します。

【 】 六浦中学校・高等学校

1. 教育の基本方針

キリスト教の精神に基づく人格教育を行うとともに、社会に求められる有用な人材たりうる学力を養成します。

2. 教育計画

教育の基本方針の実現に向けて、以下のように取り組みます。

将来、社会との関わりを維持しかつ社会に貢献できるように、職業をも意識した取り組み方を学べる広い意味での進路指導を継続します。そのために、6 年間にわたる進路に関するシラバス

の実践を継続します。

大学進学のための指導では、関東学院大学への進学の指導と他大学への指導を併行して取り組みます。なお、受験の都合に合うように、他大学理系進学希望者の高校 3 年の数学の選択を新たに一部変更します。

2006 年度版各教科科目のシラバスを作成し、学習の計画や見通しを立てやすくし、生徒達が学び易いようにそして希望する進路を実現できるようにします。

少人数教育の大きな成果を挙げるため、英語、数学について中学 2 年からの習熟度別授業を継続します。また、高校では、必要な選択科目は少人数でも実施します。

学業面と同様に、学校生活全般に関わる生活指導にも取り組みます。

3. 生徒募集計画

入学生の中に、本校での学校説明会や体験行事に参加した者もあり、現在行っている募集活動が有効に機能していることから、基本的には現行の活動を継続します。塾対象説明会の複数回実施やほぼ全教員による塾訪問などとともに、生徒獲得のためにより効果的な広報手段や学校の教育姿勢の発信方法で遅れを取らないように実施します。

4. 施設整備計画

学院創立 125 周年の本校における記念事業と位置付けて、2 号館機能の一部移転と礼拝堂の建て替えを含む新校舎建設に向けて準備に入ります。

5. その他の計画

- ・保護者を対象とした 3 週間程度の授業参観を 2006 年度も継続して実施します。
- ・保護者、生徒、教職員がともに学んだり体験したりできる土曜講座を継続します。
- ・教員研修の実施や学外の研修への参加など機会を増やします。

【 】 小学校

1. 教育の基本方針

建学の精神の具現化とともに社会の、特に保護者の要望に応えるよう、小学校の置かれた社会的基盤を踏まえて、キリスト教の精神に基づいた人間性の育成と基礎学力の充実に基本方針とします。

2. 教育計画

- ・人間性の教育は初等教育においてより効果的に行われることを考え、キリスト教教育法にさらなる研究を加えます。特に、児童個々の問題に対しては、校長・教頭はじめ各教員が、キリスト教主義に基づいたきめ細かな対応をするよう努力します。
- ・英語・らいふ・聖書の本校独自の教科を充実させるため、カリキュラムの再編成に着手します。
- ・基礎学力の定着を確実にするために、正規の授業時間外の指導を充実させます。
- ・児童の安全教育をさらに徹底します。今までの年間カリキュラムを再検討し、不審者侵入に伴う避難訓練を含めます。
- ・奉仕教育の具体的な場面として、昨年、アフリカ^{ゼロ}0 年を期して手がけた「ルワンダ支援」の活

動を教育現場に取込み、その充実を図ります。

3. 児童募集計画

ここ数年併設園より約 20 名、一般より 85 名前後の応募があり募集定員を割ることはありませんが、合格者の入学辞退が年々増えていることには今後、考慮する必要があります。このため、学校の情報を積極的に広報し募集拡大に努めます。

- ・年 2 回の学校説明会に加え、さらに夏休み中にも実施します。
- ・神奈川県下キリスト教学校展、大学主催の「ふれあい祭り」に参加します。
- ・幼児対象の受験塾とタイアップし、公開模擬テスト会場に施設を提供することにより、就学児童を持つ保護者に対する本校の周知を図ります。

4. 施設整備計画

- ・中学校との連携の中で三春台校地施設利用計画を検討します。
- ・児童の学習環境を改善するために、既存施設の付帯備品を整備します。

5. その他の計画

- ・次年度の小学校創立 55 周年を目指し、記念行事準備を計画します。
草創期来の旧教職員方を招いての歴史を語る座談会。
記念グッズの作成。
- ・関東学院中学校との一貫性について新しい関りを見出す話し合いの準備を始めます。

【 】六浦小学校

1. 教育の基本方針

キリスト教の精神、価値観を教育の基礎として、社会、学校、友人等の関係において、正しい理解と協同の心を持った児童の育成。また、児童一人一人かけがえのない人であり、時代が変わっても隣人への思いやり、奉仕する姿勢を持つ児童を育成します。

2. 教育計画

1. キリスト教教育の充実

始業前礼拝、聖書の時間、クリスマス、イースター、収穫感謝礼拝等々を通してキリスト教に対する理解を深めます。

2. 一貫教育の充実

学院の幼稚園から大学までの一貫教育の充実を目指します。

3. 国際交流とボランティア活動の発展

タイのティワタ村の子供たちとの交流を継続し、国際交流ならびにボランティア活動などの社会奉仕活動を発展させます。第 4 回タイ訪問団を「関東学院サービス・ラーニングセンター」の献堂式に派遣予定。

4. 英語教育の充実

週 1 時間のアメリカ人講師による英語の授業内容を充実させます。

5. 算数の少人数授業の継続

1 クラスを 2 つに分けて、それぞれに教師が指導する少人数の授業形態を継続し、生徒の基礎的理解を深めます。

6. 情報教育の充実

コンピュータ教室のパソコン設置台数等の充実。

7. 体験活動の充実

自然体験活動および芸術鑑賞等、児童の体験学習の充実を図ります。

8. 特別クラブの充実

トランペット鼓隊、合唱団、サッカークラブ等の顕著な活動への支援。

9. 教育相談

カウンセラーによる、児童・保護者からの問題・悩み相談を毎週月曜日に行っています。そのフィードバックにより、担任教師並びに学校としての適切な対応を行います。

3. 児童募集計画

- ・キリスト教学校展、私学フェア等での広報活動の活発化、および教職員の幼稚園・保育園訪問。
- ・入試関係ホームページ等の充実。
- ・院内両幼稚園からの推薦入学者の確保。
- ・在学生の保護者、本学卒業生・関係者等を通しての宣伝活動。

4. 施設整備計画

- ・児童入口通用門前の整地改修および守衛室の新設。
- ・児童玄関の入口周辺部の改修およびグラウンド側出入口ドアの改修。

5. その他の計画

学校における安全管理対策

学校内で一層の安全管理対策を図ります。不審者侵入対策としては、正門・東門の警備員の常駐に加えて、教職員一体となった非常時体制を検討します。また、施設および学校行事面においても見直しをして、児童の安全確保のために必要な対策を講じます。

【 】 六浦幼稚園

1. 教育の基本方針

校訓「人になれ 奉仕せよ」に表わされたキリスト教の精神に基づいて保育を行なっています。園児一人ひとりがかけがえのない人として命が与えられ、愛されていることを子ども自身が感じることができるよう、また、幼児期に大切な自主性、思いやりの心、創造性が豊かに育まれることを教育の目標において保育をすすめています。

2. 教育計画

- ・園児一人ひとりが十分に受けとめられる中で、基本的信頼感が育まれ、自己発揮ができるように努めます。
- ・自分から進んで行き、新しいものを創り出す力を育むために環境を整え、子ども自身が目標を持ち充実感や達成感を持って学べるよう、また、仲間との共同作業が充実するよう、よりよい

援助を目指します。

- ・集団生活の中でルールや人と関わる力、相手の立場になって考え共感する心が育まれる援助のあり方を検討します。
- ・幼稚園が子どもとともに親も育つ場として、親育ち支援に力を入れます。親との信頼関係の構築に重点を置き、子ども理解につながる情報を発信し、保育参加の計画等、子どもとの関わり方を含む親の子育て力の向上につなげます。教育相談や子育て講演会も計画します。
- ・保育の質、保育者の専門性向上のための研修にも力を入れます。
- ・人間環境学部人間発達学科との連携を深め、相互の研究と保育の充実に努めます。
- ・教育の連続性を課題とし、小学校との連携にも力を入れます。

3. 園児募集計画

3年保育希望者が増加し、2年保育希望者が減少の傾向にあります。希望者への対応とともに3年保育主体への移行を視野に入れた施設の充実に努めます。

公務員住宅を控えているものの、周囲は高齢世代の旧住宅が多く、また、横須賀市との境にあって、学区の仲間関係など進学を考慮すると入園に結びつきにくい面があるものの、この数年地域の入園希望者が増加しています。地域の子育て中の親への支援活動を積極的に行いつつ、地域に根ざした幼稚園のあり方を探ります。また、駅から遠い立地、一貫教育を希望する方の遠方からの車による通園も多い現状から、駐車スペースの確保に努力します。

本園は金沢八景キャンパス内の奥に位置して目に付きにくいいため、幼稚園の存在、教育内容をアピールするためにホームページを活用し、地域に向けての講演会や他の企画も積極的に発信します。

4. 施設整備計画

遊具、施設の安全点検を定期的または必要に応じて随時行い、安全確保に努めます。子どもの興味関心に基づいた活動が豊かに発展するように室内や園庭の環境整備に努めます。

子育て支援、地域への施設開放を行うためのスペースの確保が難しい状況ですが、地域のコーディネーター的役割を担うためにも施設整備を課題としてさらに検討します。

5. その他の計画

子育て支援事業として教育相談、子育て講演会をさらに充実して行い、親子で遊ぼう、動物ふれあい教室、親子人形劇場、園舎解放等も引き続き行います。また、新規事業として預かり保育を実施し、幼稚園の教育機能の拡大を図ります。

園児の安全確保対策を保護者の協力のもとに進めます。

【 】野庭幼稚園

1. 教育の基本方針

野庭幼稚園は、幼児期の教育が人格の形成の基礎になる大切なものであると考え、「人になれ奉仕せよ」の校訓に基づいて子どもたちの保育を行っています。本園での遊びを中心とした生活を通して、園児一人ひとりの個性が発揮され、それと同時に、社会性が培われ、他者を受け入れ

られる人間となるような保育を目指しています。

2.教育計画

園児たちの自主性、意欲、思いやりの心を育てることを大切にして日々の保育を行います。3,4,5 歳児、それぞれの発達段階に応じて保育し、保育内容や保育環境の充実を目指します。また、一人ひとりの個性を受け止め、お互いを大切にし合える関係づくりに配慮します。

遊びのなかで先生や友だちと触れ合い、さまざまな経験ができるよう配慮して保育します。礼拝や日々の祈りを通して、感謝をもって日々を過ごすことを大切にします。

また、保護者の協力も不可欠と考え、さまざまな機会に協力いただいています。お話サークル、コーラス部はお誕生会でご奉仕いただいています。また、本園が力を入れている「ひかり文庫」を保護者の協力を得てさらに充実させます。

このほかに、地域の子育て支援事業に力をつくし、保護者や地域社会に対して保育相談や講演会、各種集会による啓発活動を行うとともに、現在行っている預かり保育をいっそう充実させます。

3.園児募集計画

本園周辺の野庭団地は建築後 30 年以上を経過して少子・高齢化が進んでいます。また、周辺地域には多くの競合する幼稚園が存在し、幼児の取り合いの状態、本園の園児募集は厳しい状態に置かれています。

そこで、人間環境学部人間発達学科の協力を得て、保護者や地域社会に対して子育て支援の基地として貢献するとともに、保育内容においても関東学院の教育の独自性を発揮します。また、学院内小学校への推薦入学の制度を園児募集に活かします。

未就園児のための「こひつじ広場」を実施して地域に働きかけ、入園希望者の増加を図ります。一方、本園の入園希望者の実状に合わせた入園定員を検討します。

4.施設整備計画

本園は建築後 30 年を迎えて、建物の外装の劣化から建物全体の劣化に至る懸念があります。また、外観の老朽化は、園児の募集にもマイナスとなり、早急に対応を検討します。園児たちの安全に関わる遊具や設備等については、迅速に対応して整備します。

5.その他の計画

人間環境学部人間発達学科の協力を得て、地域の子育て支援の拠点として貢献できるように、子育て支援事業を推進し、発展させます。同時に、関東学院の特色のある教育を展開します。

本園の位置している港南区は有力な幼稚園が競合しているところでもあり、保育系の有力な短大もあります。その中で、関東学院の建学の精神を背景にして、大学の学問的な研究に支えられた独自の保育を展開することは、本園のみならず、関東学院全体にとっても大きな意味を持つと考えます。子育て支援の事業において人間発達学科の先生方の協力を得て、保育相談、子育て相談の事業を展開します。

保護者の協力のもと園児の安全確保対策に努めます。

【 】法人事務局

1. 法人事務局の役割

本法人が設置する学校は、大学、高等学校、六浦高等学校、中学校、六浦中学校、小学校、六浦小学校、六浦幼稚園および野庭幼稚園です。

法人は、その設置する学校教育に必要な施設および設備、または、これらに要する資金およびその設置する学校の経営に必要な財産を有しなければならないとされ、その業務は企画、総務、財務、施設部門等の多岐にわたります。事業計画を含めた法人業務の決定は、理事会の議決により行われ、これらの法人業務全般を統括するのは理事長であり、その業務の円滑な執行を支援するのが法人事務局の主な役割です。

2. 事業項目

1. 学院創立 125 周年記念事業計画

委員会を設置して 125 周年(2009 年度(平成 21 年度))記念事業を策定します。

2. 横浜元町「日本バプテスト発祥の地」石碑場所を整備します。

3. 一貫教育事業

学院一貫教育検討会議の下で、一貫教育事業を継続的に推進します。

4. 「学院クリスマス・コンサート」の開催

5. 「関東学院教育振興助成」(関東学院版 G P (グットプラクティス))

6. 課外活動振興(園児、児童、生徒、学生の活動振興に適用します。)

7. 人事計画

教職員の雇用確保を目指しつつ、雇用形態の多様化と給与体系および退職金制度の見直しを含め、長期的な人事計画を策定します。

8. 経費支出抑制

経費削減推進プロジェクトにおいて、削減策を策定し実施します。

9. 格付取得(平成 17 年度に取得した格付を継続します。)

10. 情報開示

広報誌およびホームページによる、分かりやすい財務情報の公開を進め、学生、父母にご理解が得られるように努めます。

11. 広 報

学院の建学の精神に基づく特色をアピールする編集方針により広報誌を発行するほか、ホームページを活用し、情報公開・提供を進めます。

12. 個人情報保護・コンプライアンス

学院が保有する個人情報を保護するための管理体制を充実させます。学院の事業運営あるいは業務遂行にかかわる各種法令等を遵守するための点検、検収、監査等を実施します。

13. 災害対策・危機管理

園児・児童・生徒・学生および教職員にとって安全な教育環境を保持するため、災害対策および危機管理体制を一層整備します。